

アートと 介護・福祉 の勉強会

参加
無料

オンライン
開催

人と地域と制度をつなぐ、ソーシャルなアートプロジェクトを学ぶ

美術館やホールを飛び出し、地域や介護・福祉施設で実施される芸術実践が注目されています。住民および医療・福祉サービス利用者の生活の質の向上に寄与する芸術の特質は、WHOなどでも大きく取り上げられるようになっていきます。

この勉強会では、こうしたアートプロジェクトの実践事例を学び、これからの芸術・福祉連携の可能性を考えます。介護・福祉、文化・芸術領域の実務に携わる皆様のご参加をお待ちしております。

スピーカー 青木 彬 氏
(インディペンデント・キュレーター)



一般社団法人藝と ディレクター。東京都立大学インダストリアルアートコース卒業。アートを「よりよく生きるための術」と捉え、様々なアートプロジェクトを企画している。現在は福祉とアートの接点を模索するためセツルメント運動の調査に取り組むほか、社会福祉士の資格取得を目指して勉強中。

コーディネーター 堀 崇樹

(足立区社会福祉協議会／日本介護福祉学会／日本地域福祉学会／日本ソーシャル・イノベーション学会)

スピーカー 吉田 武司 氏
(特定非営利活動法人音まち計画／東京藝術大学)



京都造形芸術大学芸術表現・アートプロデュース学科卒業。埼玉県(北本ビタミン)(2010～2012)や東京都(三宅島大学)(2013)などのアートプロジェクトの企画運営に携わる。東京藝術大学特任助教。「アートアクセスあだち音まち千住の縁」ディレクター。

2024年2月16日(金) 19:00～20:30
(第2部) 20:30～21:00

申込方法 Google formからお申し込みください。
<https://forms.gle/V8sngUDmL9SZctet7>

当日のURLは、開催日1週間前をめぐりに、申込者のメールアドレスにご案内いたします。

申込締切
2024年2月9日(金)



アートと介護・福祉の勉強会 2024

企画の背景とねらい

芸術・福祉連携の実践例は、障害・児童分野に多く、高齢者介護や、地域福祉においても決して少なくはありません。また、閉じこもり者等に対する参加支援という観点からも今後の一層期待される領域ではないかと思えます。しかし、こうした実践は制度的介護・福祉の枠組みで議論されることが少なく、学術研究においても蓄積が乏しいのが現状です。

一方、文化・芸術領域では、2017年に文化芸術基本法が改正され、福祉を含む多分野との協働推進が明記されたほか、2018年には「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行され、様々なフィールドで実践が積み重ねられるようになっていきます。

この勉強会は、こうした時代的背景のなかで、人と人、人と地域／制度をつなぐファクターとして芸術・福祉の連携に焦点をあて、その一層の発展に向けた両セクターの対話の端緒としたいと考えて企画しました。

プログラム

第1部

19:00-
20:30

(1)アートプロジェクトの紹介

「アートによる縁結び 音まち千住の縁を事例として」

吉田 武司（特定非営利活動法人音まち計画／東京藝術大学）

「キュレーターが介護の現場に出会って考えたこと」

青木 彬（インディペンデント・キュレーター）

(2)ディスカッション

コーディネーター 堀 崇樹（社会福祉法人足立区社会福祉協議会）

- ・ご発言は、指定討論者のみを予定しています。
- ・一般参加の方はチャットでのご参加となります。

第2部

20:30-
21:00

情報交換の時間

- ・雑談・情報交換の時間です。どなたでもご発言いただけます。
- ・芸術・福祉連携の取り組みについて、告知したいイベント情報などがある方はデータをご用意してご参加ください。

記録等の取り扱い

当該テーマを継続的に発展させていくため、今後の活動で活用させていただく場合がございます。趣旨をご理解いただき、予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

- ①参加者名簿(氏名、所属名)は、お申込みいただいた方に限って共有いたします。
- ②上記以外の回答および当日の記録は、今後の公開イベントや研究等の資料とさせていただきます。その際、個人が特定されるような形で取り扱うことはございません。

参加にあたって

ビデオはオンにしてご参加ください。

勉強会は、記録資料として録画いたしますが、動画・画像ともに公開することはありません。参加者の皆様にはスクリーンショット・録音はお控えくださいますようお願いいたします。